

ご自由にお取りください

ゆい ちゅうぶ

6

2025
vol.93



沖縄県立中部病院 広報誌
Okinawa Chubu Hospital

pick up!

最新放射線治療システム稼働開始!



- 最新放射線治療システム稼働開始
- 就任のごあいさつ
- 定年退職者あいさつ
～母との思い出～
- 職員紹介



pick up!

最新放射線治療システム稼働開始

— 放射線治療センター —



新装置の設置・調整が完了し5月から放射線治療を再開しました。

外部照射

治療システムがTrueBeam (米国バリアン社) に更新されました。強度変調放射線治療 (IMRT)、定位放射線治療 (ピンポイント照射) などの高精度外部照射を、より正確に短時間で行えるようになりました。がんの完治をめざした根治治療 (根治照射)、がんの痛みなど症状緩和の治療 (緩和照射) で、副作用が少なく効果の高い治療を提供していきます。



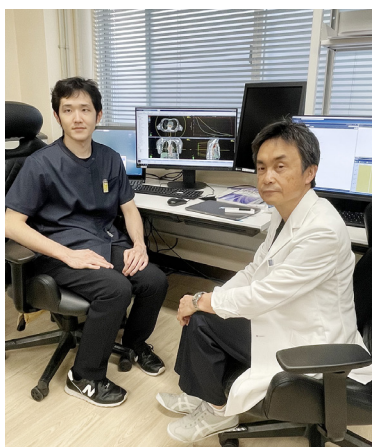
密封小線源治療

新たに遠隔操作式密封小線源治療システム: RALSのFlexitron (英国エレクトラ社) が導入されました。同室CTを備え高精度の画像誘導小線源治療を行います。特に子宮頸がんの患者さんに不可欠の治療で、県内ではこれまで琉球大学病院でしか受けることができませんでした。今後、当院でも一連の根治照射を完結できるようになります。



沖縄県立中部病院放射線治療センター:

日本放射線腫瘍学会の認定施設です。学会認定専門医2名、看護師3名 (うち認定看護師1名)、診療放射線技師5名 (うち認定技師2名、品質管理士2名)、医師クラーク1名、受付1名のチームで診療を進めています。当院は地域がん診療連携拠点病院です。院内の各診療科の医師と連携し、患者さんひとりひとりに最適な治療 (手術、薬物療法、放射線治療) の組み合わせを検討し、がんの集学的治療を進めます。高精度・高品質の放射線治療を安心して受けていただけるよう、スタッフ一同ここを込めて診療いたします。





ごあいさつ

沖縄県立中部病院
院長 天願 俊穂

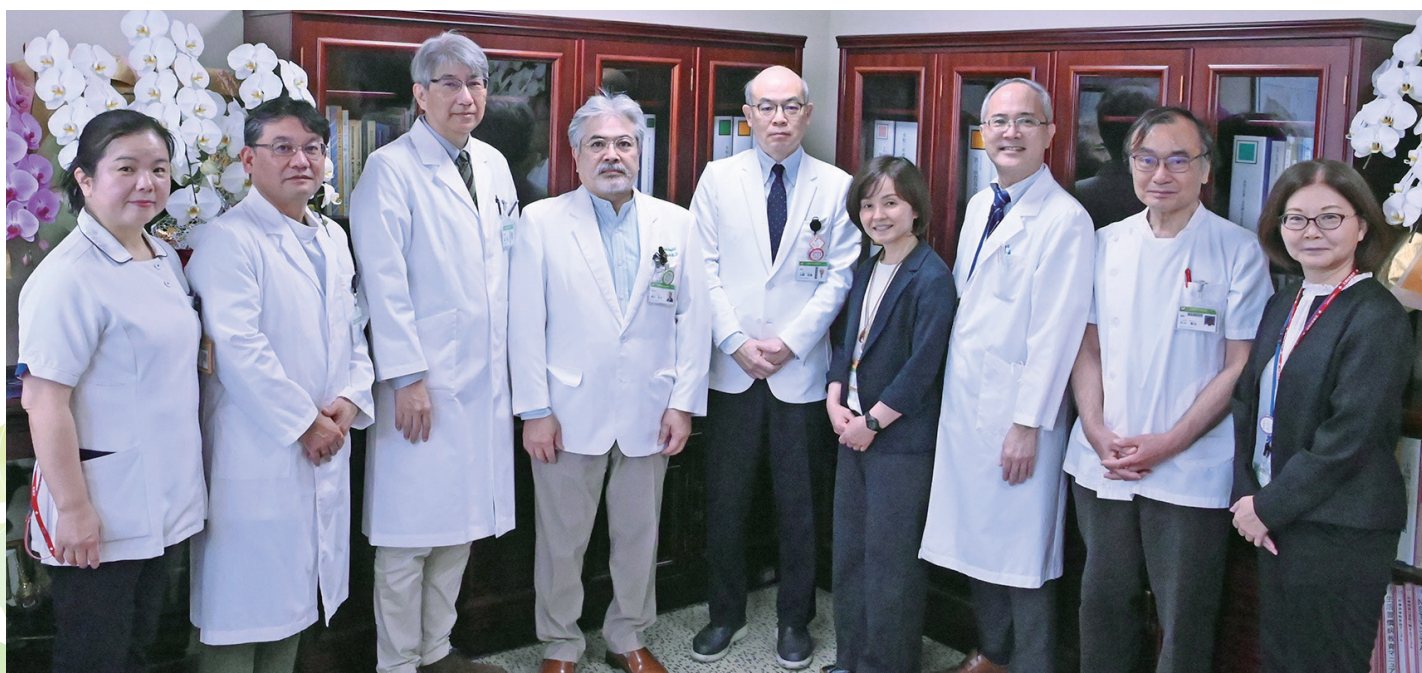
2025年4月1日付けで沖縄県立中部病院の院長を拝命いたしました天願俊穂と申します。私は1990年に中部病院から医師人生をスタートしました。研修終了後、県立宮古病院で外科医師として勤務し、大阪の国立循環器病センターで心臓血管外科のトレーニングを受け、1998年に中部病院に入職し現在に至ります。中部病院入職後、数年は一般外科グループで一般外科手術を行いながら心臓外科手術も行っていました(二刀流?)。その後、徐々に心臓外科手術症例が増えたため、心臓血管外科が独立した診療科となりました。中部病院らしいキャリア形成だと他の施設の心臓外科医に言われますが、私にとっては素晴らしい経験ができたと思自負しています。

中部病院の研修医制度が始まって約60年になります。スタッフの半分以上は中部病院で研修後、大部分(私もそうですが)は外部の専門施設で修練を積み沖縄に戻ってきています。同窓で医師としての土台が一緒の医師が多いため各科の垣根がなく、「患者さんを治す」ということに関して協力を惜しまない文化があります。そのため患者さんが重症であればあるほど、合併症があればあるほど、それぞれの専門の医師が集まって話し合いながら迅速に的確な医療を提供できるので心強いと感じます。もちろん、研修医も一緒に診療に参加するので効率よく経験が積めるということになります。それも全国から研修医が集まる理由の一つになっていると思います。

他の医療機関と同じく、コロナ禍が中部病院に与えた影響は大きく、スタッフが何人も辞め、診療制限をせざるを得ない状況が続いています。国の医療費削減の方針も相まって医療の世界はコロナ前に戻ることはなく、今まで経験したことのない厳しい状況になっています。このような状況の中でも、私たちは「いつでもどこでも安心して満足できる医療を提供」するため「患者中心主義、社会的貢献、チームワーク」を理念とし、医療の質、教育の質、経営の質の向上を常に考え、全職員一丸となってこの難局に立ち向かっていく所存です。

私の仕事は、楽しくやりがいのある職場づくりと、中部病院が担うべき役割を十分に果たすことができるように舵取りすることだと思っています。また、中部病院の建て替えに関しては、今年から話し合いが始まりますが、将来を見据えた夢のある病院を作るべく努力していきたいと思っています。そのためには職員のみならず、皆様からのこれまで以上のご協力が必要だと思っています。何卒よろしくお願いいたします。

〔新体制紹介〕



金森看護部長 金城医療部長 高良副院長 橋口副院長 天願俊穂院長 神里副院長 喜舎場医療部長 石川医療部長 新里事務部長

定年退職者あいさつ

～母との思い出～



中部病院看護師
Iwakyoo さん

ねえ定年退職ってどんな気持ち？

「退職したら毎日が休日、毎日日曜日になるんだよ。うれしくない？」某放送局に勤めていた母は、ひまわりのような人でした。

朝は4時に起き、皆の朝食とお弁当を作り、7時には出勤。16時に帰宅してから孫の世話。夏には30日の休みをとり、きび畑の手伝いなど男まさりになんでもこなすスーパーマシーンでした。

趣味は旅行。年1回、月3万円を模合で積み立て、60万円以上の旅行を社員価格(半額)で世界に飛び回る。スイス(ユングフラウヨッホ)へ2回、今は足をふみいれる事の出来ない永久凍土の山へ。

「どうだった？どんな旅だった？」と問うと「どうだったか、どんなにステキな所だったかは一緒に行った人でないとわからない。言葉では言い表せない」。写真を数枚みた。「あんたも行ってみなさい。どれだけすごいか分かるから」と、アメリカ(ニューヨーク)、カナダ、オーストラリア、ヨーロッパ各国(周遊)、増水でオランダのチューリップを運ぶ浮き船は行けなかったとも、旅はまだまだつづくのだと思われた。

定年して数ヶ月した頃母から言われたのは「仕事はね、家族を養う為にやっている。誰かのために一生懸命勤めると思っていたけど、違ったよ。自分のためだった。人との出会い、社会と向き合い日々生きる事の大切さを今になってわかるとは。あんたも定年まで勤めあげなさい。そしたら今の私の気持ちがどんなだったかわかるから」と。

65歳で白血病発症、68歳で他界した母 「年金も食べないで(カマンヨーイ)行ってしまった」と祖母の口ぐせ。祖母は母の分も103歳の天寿をまっとうし、母の元へ

今年、定年退職を決断した私にはどんな日々が待っているのか？あのとき母に「定年退職ってどんな気持ちか？」聞いた答えがわかるときがきた！

「仕事は誰のためでもなく、自分の為にやってきた」と私も今日現在の心の内を言葉にして定年退職いたします。

● 職員紹介 ●

はじめまして、救急センター所属の門口太輝です。学生時代、熱中症や交通事故で救急車に乗った経験から、活躍する救急隊員に憧れ、救急救命士を志しました。中部病院を選んだ理由は、3次救急を担うこの環境で、多様な症例に触れ、自分のスキルを高めたいと考えたからです。

現在は、救急搬送された患者さんの初期評価や医療行為、転院搬送の調整・同乗などを担当しています。日々緊張感のある現場ですが、重症患者様の容態が回復したとき、大きなやりがいを感じます。特に、高齢患者様で難しい静脈路確保に成功した瞬間は、今でも忘れられない経験です。

業務では、患者様に適した医療器具や薬剤を適切に判断する知識を身につけることに苦労しましたが、医師や看護師をはじめ、優しく明るい職場の皆さんに支えられ、日々の業務に励んでいます。今では、家族と過ごす時間やおいしいごはんが、日々のモチベーションになっています。

これからも医療の最前線に立つ責任と誇りを胸に、一件一件の救急対応に全力で取り組んでいきます。



救急救命士
門口 太輝 さん

